



NHK連続テレビ小説「梅ちゃん先生」。そのオープニングタイトルを飾ったジオラマを製作した山本高樹さんの「昭和幻風景ジオラマ展」が、東京・日本橋の高島屋で開催された。十月二十日のトークショーには庶民文化研究の第一人者・町田忍さんが登場！愛してやまない昭和の話で大いに盛り上がったトークセッションの様をお楽しみください。

### テレビは昭和の星だった

町田 どうもこんにちは、町田です。

山本 こんにちは、山本です。「昭和原風景ジオラマ展」と銘打った展示に、こんなに大勢の方にお集まりいただけるなんて、皆さんも昭和が好きなんですね。僕たちにとっては、昭和ってまだ終わっていませんからね。

町田 感覚的には、完全に引きずっていますね。僕なんか、明治から引きずっている部分もありますよ（笑）。ところで、山本さんは一九六四年生まれですよね？

子供のころ、家にはどんなテレビがありました？

山本 四本足のモノクロテレビで、チャンネルは手回しでした。

町田 ゴブラン織りのカーテンはついていなかったでしょう？ ガラスが三色になっていて、無理やりカラーテレビって言ったりもしていなかったでしょう？

山本 そこまでの経験はないです（笑）。カラーテレビが来たのは、万博のころだったと思うな。

町田 一九七〇年くらいですね。僕は一九五〇年生まれですが、うちもそのへんでした。

さて、ここでクイズです！ テレビ放送が始まった一九五三年二月一日当時、全国には何台くらいテレビがあったでしょうか？

山本 ……一万台くらいかな。

町田 正解は、約八百八十台です。

山本 そんなに少なかったんですか。一般家庭にはなかったの？

町田 とんでもない！ 受像機の値段は、いまならだいたい一千万円くらいでしたから、テレビがある家は相当お金持ちだったはず。新橋の駅前であっていた街頭テレビのプロレス中継には、二十インチほどのテ

レビ三台に対して、なんと一万人近くの人出があったといえます。

山本 『梅ちゃん先生』にも、街頭テレビでプロレスを見るシーンがありましたね。

町田 当時は銭湯もかなり儲かっていたので、男湯と女湯の境にテレビを置くところもあって、プロレスをやっていたら、お客が殺到して、境目の壁が倒れたって話もあります。

山本 テレビの力、すごいなあ（笑）。テレビ文化は、人々の生活を変えましたよね。

町田 いまでは考えられないくらい、影響力があったんですね。テレビ喫茶というものもあって、十円くらいでテレビを見せていたんですよ。いまだと千円くらいの感覚じゃないかな。

### 人間の大きさに見合った建物がい

山本 「梅ちゃん先生」のオープニングに出てくる梅ネコって、ご存じですか？ 背中に梅の模様のあるネコなんですけど、ジオラマのいろいろなところに登場させているので、ぜひ探してみてください。